



有松まちづくりの会役員会（2月28日）

本年度の日本遺産事業についての報告が各担当からなされ、3/21(月・祝)に開催されるシンポジウムについて竹田会長より協力の要請があった。

有松まちづくりの会の事業として、来年度はより具体的な活動をするべく総会に向けて各部ごとに提案をするよう申し合わせた。



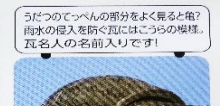
雪の天満社2/6と木彫りの鶯(うそ)

子ども向けリーフレット完成

毎年、近隣の小学校数校が有松に勉強にやってきます。より分かりやすい資料として子ども向けリーフレット「日本遺産のまち 有松」が作られました。絞り・町並み・山車が易しい言葉で紹介され、ルビも多く振られています。イラストを多用したMAPや興味深いオブジェ（鬼瓦やガス灯、鍾馗など）を載せるなど、工夫して作られています。



家や家族の「厄除け」「魔除け」の役割を持つ鬼瓦と鍾馗様。共に有松の町を守ります。



うだつのでっぺんの部分をよく見ると、雨水の侵入を防ぐ瓦にはこのらぬ模様、瓦名人の名前入りです！



明治期のガス燈の名残

改めて手に取ってみると、子ども向けに制作されたものですが大人にとっても十分に役立つものです。有松観光のイロハが書かれています。発行は有松日本遺産推進協議会。

町並み案内で受けた質問から⑦

有松あないびとの会 伊藤総俊

Q7 古いお店には店舗玄関の西側にもうひとつ玄関がある建物が少なくありません。どうしてですか？

A7 江戸時代、参勤交代で江戸からの帰りに一歩でも早く店に入っていたために店舗玄関は東側、本玄関は西側に作られるようになった。本玄関の奥には上層客への接待空間、座敷や茶室が整備された。



浮世絵(竹谷佐兵衛商店)



竹田嘉兵衛商店

明治時代になり、商形態が卸売りに変わり座敷などは必須の施設ではなくなった。それでも、かつての絞り商の屋敷構えとして主屋とは別に玄関・座敷・茶室が整備されている。

小学3年生 あないびとの会と地域学習

○ 桶狭間小学校(1月26日)

今年も3年生110名の皆さんが、前半後半に分かれて有松にやってきました。あないびと一人につき6名をご案内。少人数ということもあって和やかな雰囲気です。ガイドの説明を一生懸命メモしていました。興味を持ったものについてすぐに質問もしていました。学びの意欲にあふれていました。有松山車会館ではからくり人形を操作することができ、説明を聞くだけでなく体験することでさらに興味を増したようです。



←竹田庄九郎碑の前で



絞会館の駐車場で

○ 有松小学校(2月10日)

あいにくの雨で、ガイドの説明をメモすることができません。その分、より真剣に聞いているようです。あないびとも子どもの関心を引き付ける工夫を怠りません。耳を傾けると「有松に最初に移住してきたのは何人ですか？ ①8人 ②80人 ③800人」の声。こんなクイズ形式も取り入れ学習は進められていました。もちろん大盛り上がり。4クラス116名が学習に励んでいました。



校庭の飾り門の前で



有松山車会館で

有松福よせ雛さんぽ道 (2月20日～3月21日)

今年も福よせ雛の季節がきました。不要となり捨てられていく雛人形を「福よせ雛」としてもう一度活躍させようとする企画です。

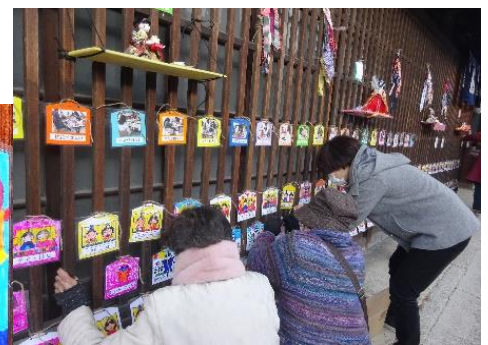
有松では今年で7回目。コロナ禍のため実行委員が集まったの準備作業は十分にできませんでした。近隣の大学や幼稚園・保育園などの協力を得て、東海道の福よせ雛を飾ることができました。細長い板に工夫して人形を飾る学生さん。園児は塗り絵でしたが、今年はグランパスくんが加わりました。



有松郵便局の福よせ雛

設置作業に同行させていただきました。その日は8人の皆さんと作業したのですが、ひもで格子にしばりつけるのが大変。それでも、助け合いながらの作業は楽しかったです。

学生さんとグランパスくん



《福よせ雛制作協力》

安藤商店前での設置作業

桜花学園大学・名古屋短期大学・有松小学校(トワイライトルーム)・有松幼稚園・あおば保育園
きよすみ保育園・名古屋短期大学付属幼稚園・デイサービス松柏苑・ごらく・花の木の实 ほか

有松絞りまちなみ美術館（2月1日～6日）

～ 有松絞り 過去・現在・未来 ～

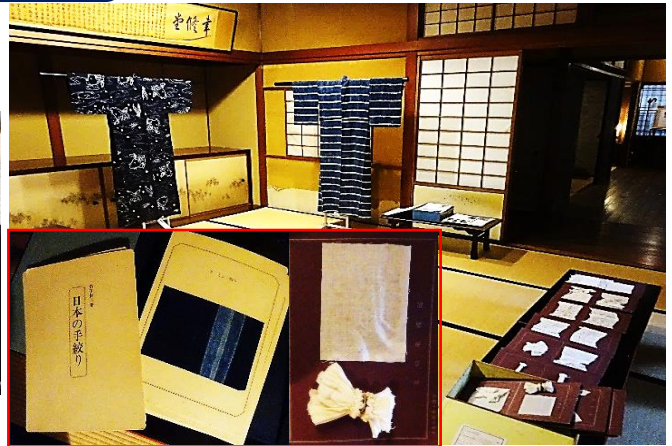
様々なアーティストの作品が
有松7会場で展示されました。



旧山田薬局 ↑ →

過去

有松絞りの歴史の変遷



竹田家住宅:書院 →

書院では故竹田耕三氏制作の着物や著書「日本の絞染」に収められている「絞りアーカイブ」が展示。地道な調査研究に頭が下がりました。旧山田薬局には国際絞り会議に出品された伊藤陽子氏(ファッションデザイナー)の形状記憶技術で作られたドレスが展示されていました。



竹田家住宅:茶室 ↑



KONMASAビル ↑3階・2階 →

現在

有松の今



KONMASAビルでは写真家岡崎リョウタ氏の「有・松・新・景」写真展が行われていました。ここ数年、日本遺産のまち有松の魅力を引き出すべく撮られた写真。3階はKONMASA自身の作品。4階では突然現れた球体がテーマ。竹田家茶室には嵐絞りを復活させた早川嘉英氏の作品。



未来

有松絞りの未来を展示



↑竹田家住宅:三番蔵 ↑川口家住宅

絞会館(屋外)「竹色の涙」↑

1992年の国際絞り会議で方向づけられた絞り染め概念、「染める」から「凹凸を付ける」に発展した作品が展示されていました。竹田家三番蔵では伝統工芸士 久野剛資氏提供の有松絞りを形状記憶した素材を用いた伊藤陽子・酒井真知子両氏(ファッションデザイナー)の作品が、川口家住宅には学生作品が展示されていました。絞会館屋外には久野剛資氏の絞りインスタレーション「竹色の涙」の展示。「舞台上使った絞り加工の布。着物でも小物でもインテリアでもないもの。いろいろな使われ方をして欲しい。絞りの多様性を示したかった」(久野剛資氏談)

絞りのある暮らし展（2月9日～15日）

ゲストハウスMADOで興味深い展示会が行われていました。

説明書きによると「有松絞が現代の暮らしのなかに馴染んでいく可能性を探る展示」とのことです。具体的には、会場であるMADOの1階和室天井に有松絞りの布を貼り込み、天井画のように眺める体験をしていただくというものです。宿泊施設ならではの発想かと。宿泊客目線で、有松の絞りを見るとどうなるかとの問題意識から企画された展示会のようなのです。

確かにそこには藍色の広がる空間が満ちていました。



MADO1階和室の天井

有松文芸のこみち④ 山村 幸雄

有松旧東海道沿いに歌碑が7基ある。今回はありまつ公園にある冷泉為章の歌碑を紹介。

『 立ちつづく 常盤のかけを 契りにて

千歳もすまん 有松の里 冷泉為章 卿 』

作者 冷泉為章（れいぜい ためふみ、1752～1822）

冷泉為章は江戸後期の公家冷泉家十七代当主である。為章は宝暦2年(1752)生まれ、文政5年（1822）没す。姓は藤原。正二位前権大納言に至る。

この冷泉為章の歌は、「松並続く東海道のその松の下で誓った。末永く栄える有松村であれ」。有松村開拓の誓いを詠んでいる。この和歌は常磐（常磐木の松）と有松（松）、常磐（永久不変）と千歳（永く続く）が掛けてある「おめでたい歌」。

冷泉家は詩聖と仰がれる藤原俊成・藤原定家を祖に持つ「和歌の家」で八百年の長きにわたり和歌の宗家として、伝統を守り続け、現在も活動されている。

〈設置のいきさつ〉

ありまつ公園が新たに開園されたのを記念し、名古屋緑ライオンズクラブと名古屋名南ライオンズクラブが、平成21年10月に寄贈したものである。

催事・行事の予定

2月20日～3月21日 有松福よせ雛さんぼ道 有松東海道一带 同実行委員会

3月6日(日) 10:00 アリマツマーケット 有松天満社一带 ありまつ中心家守会社

3月6日(日) 14:00 山口晃司津軽三味線ライブ 棚橋家住宅 有松町家ライブ実行委員会

3月14日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン

3月20日(日) 9:30 有松天満社春季大祭 有松天満社一带 文嶺講

3月20日(日) 11:00 有松あないびとの会無料町並みツアー 受付 岡家住宅(11時,12時,13時,14時)

3月21日(月・祝) 10:00 有松日本遺産事業シンポジウム 絞会館（午前：オンラインあり）

3月27日(日) 7:30 かえで道清掃

3月28日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者 竹田嘉兵衛（有松まちづくりの会 会長）

編集者 加藤 明美（有松まちづくりの会 広報部員）

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp



コロナ退散！

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。有松のまち で検索

有松史料調査研究発表会（2月5日・6日）

3年間、日本遺産事業として会合を持ってきた「有松史料調査保存会」による発表会（展示）が棚橋家住宅で行われました。調査過程の中で見出された貴重な史料が所狭しと展示してありました。

《主な展示内容》

- ・ 有松絞りと世界の繋がり
- ・ 有松絞りとファッション
- ・ 故竹田耕三氏コレクション
- ・ 懐かしい有松の写真展
- ・ 鈴木金蔵氏にまつわる史料



昭和のお天王坂界限

記者が展示会場で足を止めたのは、「鈴木金蔵氏にまつわる史料」コーナー。

ご子孫の文嶺講第42代総代長 鈴木章二氏宅には、有松絞り中興の祖 鈴木金蔵氏ゆかりの品々が伝わっているとのこと。展示品いくつかを誌上で紹介させていただきます。

○ 特許願下書き等

明治の始め、有松絞りの衰退を得意な機械や新工夫によって救った鈴木金蔵氏。しかも考案した方法を特許局に出願するだけでなく、専用権を独占することなく広く同業者に伝えました。

○ 掛け軸(山崎延吉)

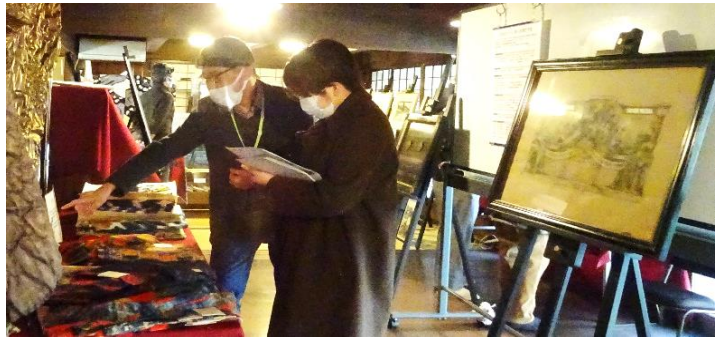
山崎延吉は安城の農学校の校長先生をされた方。鈴木金蔵の人柄を歌に詠んだもの。

「田に畑にいそしむ人に幸あれや
花も紅葉もみるひまのなき」

当時は感動すると書を渡す習慣があったとのこと。

○ 掛け軸(白梅に鶯図・御衣(おんぞ)図・若松旭日図 隆一絶筆宜稲(ぎとう)補筆)

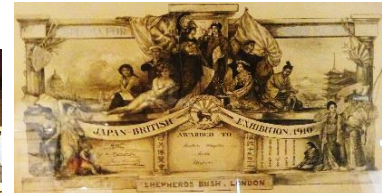
隆一は金蔵の孫。画家を志し森村宜稲の稲香画塾に入塾。掛け軸「白梅に鶯図」は宜稲のもの。



展示会場の様子



現代歌舞伎衣装



博覧会授賞記念賞



アフリカへの輸出品



故竹田耕三氏コレクション



左:特許願下書き

中:掛け軸

(山崎延吉)

右:掛け軸(御衣おんぞ図

・白梅に鶯図)



また、掛け軸「御衣図」には次のように書かれています。

明治三十よつ年菊月十五日、菅公の文章峯にのぼる。

居夜月くもれりけり、そゝろこゝろさむし。

いまでも猶 君かなみに くもるらむ

ふみの高ねの 望月之影

明治34年9月15日に有松を訪れた宜稲が、道真ゆかりの文章嶺に登り、広蓋に入った御衣の絵を描き、歌を詠みました。道真は、大宰府に流された後の9月10日、一年前に天皇から御衣を賜ったことを懐かしく思い出し、詩を作って涙を流したという故事をもとにした作品です。

(展示品説明文より)



↑ 広蓋の中の御衣

→

掛け軸(若松旭日図
隆一絶筆宜稲補筆)



深掘りありまつ 辻が花染め熱田発祥説

竹田嘉兵衛

過日(1/18) 有松あないびとの会総会でご講演いただいた お話の一部です。
大変興味深い内容でしたので紹介します。

日本で一番古い絞り染めは、正倉院にある纈纈(こうけち)と呼ばれるものです。絞りのことです。絞り染めの歴史に、1500年代大変革が起こります。辻が花染めの登場です。当時最先端を行く技術革新だったと思います。その頃は、一般の方が着るといより家康・秀吉・信長など有力者が着ていたものでした。徳川美術館には家康着用の辻が花染めが残っています。今でも着たいと思わせる柄です。辻が花染めは不明な点が多く、高度な技術で作られているので幻の染色と言われていました。当時のものを復元するため、徳川美術館でルーペを使い詳細に観察する機会をいただき、時間がかかりましたが、制作することができました。



家康遺品の辻が花染羽織

この辻が花染めの名称発祥に関して、仮説として「熱田辻が花説」があります。徳川美術館学芸員だった桜井清香さんが提唱されたもので、辻が花染めは熱田神宮あたりで作られたという説です。染め物には全て、その土地の名称がついています。辻が花という地名を探したところ、熱田神宮のあたりにかつて「辻が花町」がありました。しかも、その隣には布曝女(そばくめ)町や幡屋(はたや)町など染色関係の町名がありました。

辻が花染めという技法は縫い絞りです。ほとんどの縫い絞りは有松に隣接した地域で作られ、有松絞りと共通の技法で作られていました。また、愛知から岐阜にかけて纈纈さんという方が結構います。おそらくどこかで絞りに関係しているのでは。更に、15世紀後半知多半島や三河で木綿の生産が行われています。熱田近辺の辻が花染めは木綿という新繊維で作られていました。

有松絞りの開祖 竹田庄九郎が1608年に有松に来たときは二十歳前後。その頃辻が花町はすでに存在しています。しかも、庄九郎の出身地は家康のお母さん 於大の方の出身地でもあります。自身が辻が花染めを着ることはできなくても、目にするにはあったと思います。

これらのことを考え合わせると、辻が花染めは有松で絞りが生まれるきっかけになったかもしれません。更に、短期間で急成長を遂げ全国的に有名になったことも、熱田近辺で行なわれていたことと関係しているのではないかと思います。